

# 賛同！合格への近道は過去問の暗記

東京福祉大学学長補佐  
元東京福祉大学学長  
元筑波大学第二学群長  
元筑波大学第二学群人間学類長  
元筑波大学心理学研究科長  
元学習院大学教授  
日本認知心理学会初代理事長  
教育学博士 太田信夫

中島総長のご指導のもと、新井先生による臨床心理士・公認心理師試験対策授業を見学させていただき、私自身の授業実践に大変勉強になりました。ありがとうございました。

副題に書かせていただいたタイトル「賛同！合格への近道は過去問の暗記」は、中島総長の言われる「この**授業の目的は、学生の合格にある**のだから、そのためには過去問の暗記が必要」に対して、「全く同感し、賛同いたします」という私の気持ちを表したものです。

授業中、中島総長が指導されていたように、「よく読んで理解し暗記することに集中することが大切だ」すなわち理解・暗記・集中ということは、本当に大切なことだと思います。

この理解・暗記・集中というポイントを、学生に徹底させること、そして確かめることを、今後の授業に活かしていきたいと思いました。

オンラインでの学生の表情やしぐさ、行動をよく見ていたのですが、わかりにくいところもありました。結果として、全員満点を取り、授業目標は達成しているので、学生の頭の働きは十分だったと推測しています。しかし、老婆心ながら、見学中に気づいた私の心配事を以下に書かせていただきます。

① 学生が本授業の予習をどの程度しているかどうかはわかりませんが、「問題」を読み、次に「正答と解説」を読む時に、問題に対する自分自身の○Xの判断をどのぐらい意識しているか、気になりました。本人は、知識不足や考え違いで正答できなかったり、既知の知識で正答したり、知識が曖昧で当てずっぽうで○X判断をしたり、いろいろとあるでしょう。そして次の解答を読む時に、「なるほど」と思ったり、新しいことに気づいたりするわけですが、私の考えでは、大なり小なり自己判断が最初にあったほうが、暗記が効果的にできる可能性が高いように思います。わずかの感情ですが、自分の知識に自信を強めたり、「考え違いをしていた」という失敗感を感じることも、アクティブ・ラーニングには必要です。

② 「正答と解説」を読む時に、その文章をどの程度理解して暗記しているかが、心配になりました。たとえば、「併存的妥当性」という用語がさらりと出てきますが、どの程度の具体的なイメージがあるかが、解説全体の理解に影響してきます。新井先生が、解説文の説明の理解を深めるために、最小限の補足説明を2,3回しておられました。学生は、解説文をできるだけ完全に理解できるよう、復習の時にいろいろと調べてみるのが大切です。

③ 暗記をするための適切な時間を決め、集中させていましたが、これは本授業の核になるところだと思いました。皆一生懸命に暗記をしていましたが、一般的に、効果的に暗記するには覚え込むことばかりに集中しないで、何も見ないで**思い出す練習**もすることが良いと言われます。何のために暗記するかというと、後で必要な時に思い出せることが目的なので、自分で思い出すことを十分に経験しておくことが、望まれるのです。結果的に**全員 100点**の事実は、皆さんそれぞれの方法で効果的に暗記していたと推測しますので、私の考えは蛇足かもしれません。

④ 最後に、中島総長が強調されていたように、授業後も何回も見て復習し、暗記したことを定着させるということは、本番の試験が数カ月後ということを見ると不可欠のことだと思いました。できれば、自分なりのノートをつくり、後ですぐ思い出せるような要点を書き留めておくが良いです。実際に**自分の言葉で書く**という行為は、記憶を長持ちさせることにつながると思いました。